

カナダ高配当株ツインα (毎月分配型)

追加型投信／海外／株式

第22期末 (2015年4月17日)	
基準価額	7,011円
純資産総額	248,095百万円
第17期～第22期	
騰落率	+3.0%
分配金合計	900円

*騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- ◆運用報告書については、2014年12月以降に決算を迎えるファンドから「運用報告書(全体版)」とその中の重要な事項を抜粋した「交付運用報告書」の二種類を作成いたします。
- ◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。
- ◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法により交付することを定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

下記ホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「ファンド検索」を選択⇒「ファンド名の一部から探す」にファンド名を入力⇒該当のファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

ホームページアドレス <http://www.daiwasbi.co.jp/>

お問い合わせ先

デスクロージャー部 ☎0120-286104

受付時間は、毎営業日の午前9時から午後5時までです。

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

第17期 2014年11月17日決算 第18期 2014年12月17日決算
 第19期 2015年1月19日決算 第20期 2015年2月17日決算
 第21期 2015年3月17日決算 第22期 2015年4月17日決算
 作成対象期間 (2014年10月18日～2015年4月17日)

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「カナダ高配当株ツインα(毎月分配型)」は、このたび、第17期から第22期の決算を行いました。

当ファンドは、主に投資信託証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

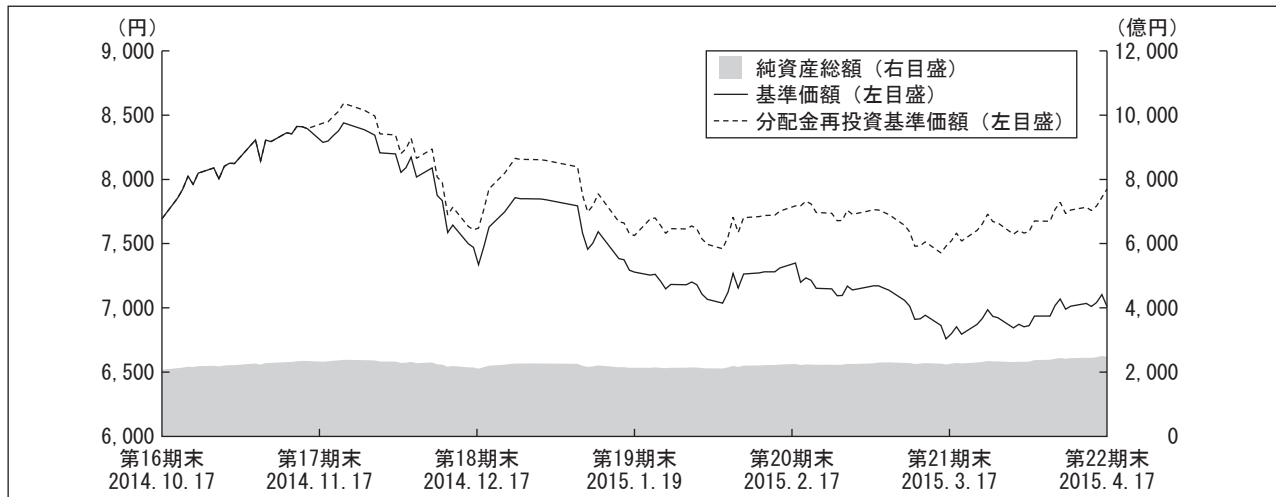


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第17期首： 7,693円

第22期末： 7,011円（作成対象期間における期中分配金合計額 900円）

騰落率： +3.0%（分配金再投資ベース）

■基準価額の主な変動要因

当ファンドは、Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classへの投資を通じて、主としてカナダの株式等へ投資を行いました。

（上昇要因）

銘柄選択では、ヘルスケアセクターにおいて医薬品会社のConcordia Healthcare Corpの保有、エネルギーセクターのBrookfield Renewable Energy Partners L.P.の保有などがプラスに寄与しました。また、公益および電気通信サービスセクターのオーバーウェイトも収益に寄与しました。

（下落要因）

エネルギーセクターの銘柄選択がマイナス要因となりました。同セクターは原油価格の急落を受けて下落しており、特に高配当の銘柄を中心に保有したことがマイナスに作用しました。Twin Butte Energy Ltd.、Canadian Oil Sands Ltd.、Northern Blizzard Resources Inc.などの保有がマイナスに作用しました。

【1万口当りの費用明細】

項目	第17期～第22期		項目の概要
	2014年10月18日～2015年4月17日		
	金額	比率	
信託報酬	51円	0.673%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は7,542円です。
（投信会社）	(16)	(0.210)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(34)	(0.450)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(1)	(0.013)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.001	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.001)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	51	0.674	

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

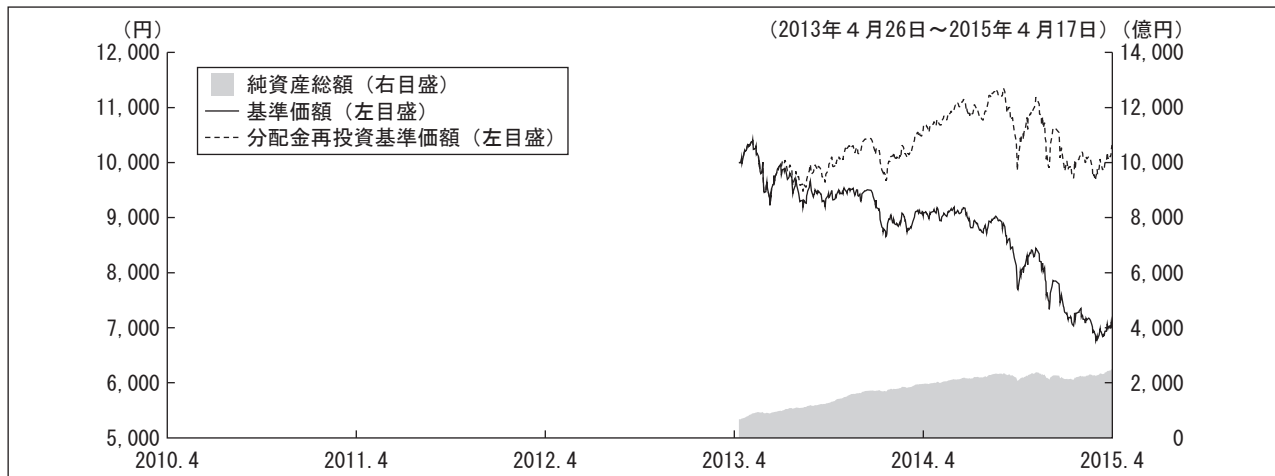
* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

【最近5年間の基準価額等の推移】



*当ファンドの設定日（2013年4月26日）より表示しております。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を表示しております。

*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様ご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

	2013年4月26日 設定日	2014年4月17日 決算日	2015年4月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,032	7,011
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,500	1,800
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.1	△ 2.7
純資産総額 (百万円)	67,519	194,731	248,095

【投資環境】

当作成期のカナダ株式市場は上昇しました。しかしながら、高配当銘柄のうち、特に資源関連株の不振が目立ちました。資源関連株のボラティリティ（価格変動性）が高まった要因は2014年の年末にかけての原油価格の急落でした。原油の供給過剰に加え、利上げが予想される米国と緩和政策を継続している他の先進国との政策姿勢の違いなどを背景に、米国の金利先高観から米ドルが上昇し、原油価格の下落に拍車をかけました。また、11月の石油輸出国機構（OPEC）総会後も、サウジアラビアが減産を行わない意向を明らかにしたことで、原油価格のボラティリティが高まりました。ただし、作成期末にかけては原油採掘装置（リグ）の稼働数の減少や、石油会社の資本支出削減、各国の緩和政策による経済成長見通しの改善などを受け、原油価格は反転上昇する局面も見られました。

セクター別では、ヘルスケア、情報技術や生活必需品などが大きく上昇した一方、エネルギーや素材などが大きく下落しました。

為替相場では、カナダドルが対米ドルで下落しました。米国の金利先高感に加え、カナダ中央銀行（BOC）が政策金利を1.0%から0.75%に引き下げたことなどがカナダドルの下落につながりました。一方で、日本が引き続き、デフレ脱却に苦慮していることなどを背景に、円が対米ドルで大きく下落し、結果として対カナダドルでは円安となりました。

国内短期金融市場では、日本銀行の短期国債買入れオペでの札割れ、短期国債入札での初のマイナス金利応札など需給ひっ迫を背景に短期金利の低下ペースが加速する中、日本銀行の追加金融緩和を受けて、短期金利は大きく下振れる展開となりました。年末にかけて短期金利の低下傾向が一服した後は、欧州での量的緩和導入観測や日本銀行のさらなる追加金融緩和観測を材料に短期金利は再び低下する局面もありました。しかし、超過準備預金への付利引き下げを否定した日本銀行政策決定会合を受けて、短期金利は上昇に転じました。作成期首-0.033%で始まった国庫短期証券3ヵ月物利回りは、11月下旬に過去最低水準となる-0.08%台まで低下した後、-0.02%で作成期末を迎えました。

【ポートフォリオ】

■カナダ高配当株ツインα（毎月分配型）

主要投資対象であるPrincipal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classを作成期を通じて高位に組み入れ、作成期末の投資信託証券組入比率は96.6%としました。

■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

当作成期も引き続き、事業ファンダメンタルズの改善が見込まれる銘柄のうち、持続的に高い配当の支払いを行うことが可能な銘柄を中心とするポートフォリオ構成を継続しました。相対的に高い配当利回りが期待できるエネルギーセクターと金融セクターの保有比率を高位に維持しました。

エネルギーセクターでは、年末にかけての原油価格の下落を受け、バリュエーション（相対的な価値評価）の点で妙味ある水準になったとの見方から、Husky Energy Inc.やEnbridge Inc.を新規に組み入れ、Crescent Point Energy CorpやWhitecap Resources, Inc.などの買い増しを実施しました。今後は、採掘装置の稼働数削減などによる生産量の減少に伴って需給が改善し、原油価格上昇への見通しも明るくなると期待しています。金融セクターでは、2014年に大きくアウトパフォームした銀行銘柄の組み入れを減らした一方、H&R Real Estate Investment Trustや、RioCan Real Estate Investment Trustなどの成長が期待される不動産投資信託（REIT）の保有比率を高めました。

また、株式への投資に加え、カナダ株価指数のコールオプションの売りを行う株式カバードコール戦略および円に対するカナダドルのコールオプションの売りを行う通貨カバードコール戦略を活用し、運用を行いました。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債中心による運用を継続しました。年限に関しては、6ヵ月以内の短期の国債を中心に組み入れました。期末の平均残存期間は3ヵ月程度となっています。

【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

【分配金】

収益分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第17期～第22期の各期において150円とさせていただきます。（1万口当り税込み）

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第17期	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期
	2014年10月18日 ～2014年11月17日	2014年11月18日 ～2014年12月17日	2014年12月18日 ～2015年1月19日	2015年1月20日 ～2015年2月17日	2015年2月18日 ～2015年3月17日	2015年3月18日 ～2015年4月17日
当期分配金 (円)	150	150	150	150	150	150
(対基準価額比率) (%)	1.78	2.00	2.03	2.04	2.17	2.09
当期の収益 (円)	150	150	150	150	150	150
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	871	906	947	986	1,026	1,077

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

■カナダ高配当株ツインα（毎月分配型）

引き続き、運用の基本方針に従い、主に円建ての外国投資信託Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class受益証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指します。

■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

引き続き、事業ファンダメンタルズの改善が見込まれる銘柄のうち、持続的に配当の支払いが可能な銘柄を中心に構成し、高水準のインカムゲインと株価の上昇によるキャピタルゲインの獲得を目指します。

セクター別では、配当利回りが高くキャッシュフローが潤沢な銘柄の多いエネルギーセクターの比率を高めとしています。エネルギーセクターの個別銘柄では、原油価格の大幅な下落を受け、しっかりとしたバランスシートを有し、高い配当利回りが続くことが期待される銘柄を選好します。世界の経済成長の減速や供給過剰が続いた場合には原油価格が一段と下落する潜在的リスクはありますが、今後は原油価格上昇の可能性の方が高いと考えています。金融セクターについては、当作成期は銀行銘柄の配分を引き下げたものの、足元の株価調整と収益改善を受けて配分を戻しています。個別銘柄では、富裕層向け分野や、トレーディング収益、国内貸出の安定的な拡大などが配当性向の改善につながる銘柄に注目しています。

また、引き続き株式への投資に加え、カナダ株価指数のコールオプションの売りを行う株式カバードコール戦略および円に対するカナダドルのコールオプションの売りを行う通貨カバードコール戦略を活用し、オプションプレミアムの確保を目指します。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債を中心とした運用を行っていきます。日本銀行による金融緩和政策が続き、短期金利の上昇リスクは限定的と予想します。平均残存年限については2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

お知らせ

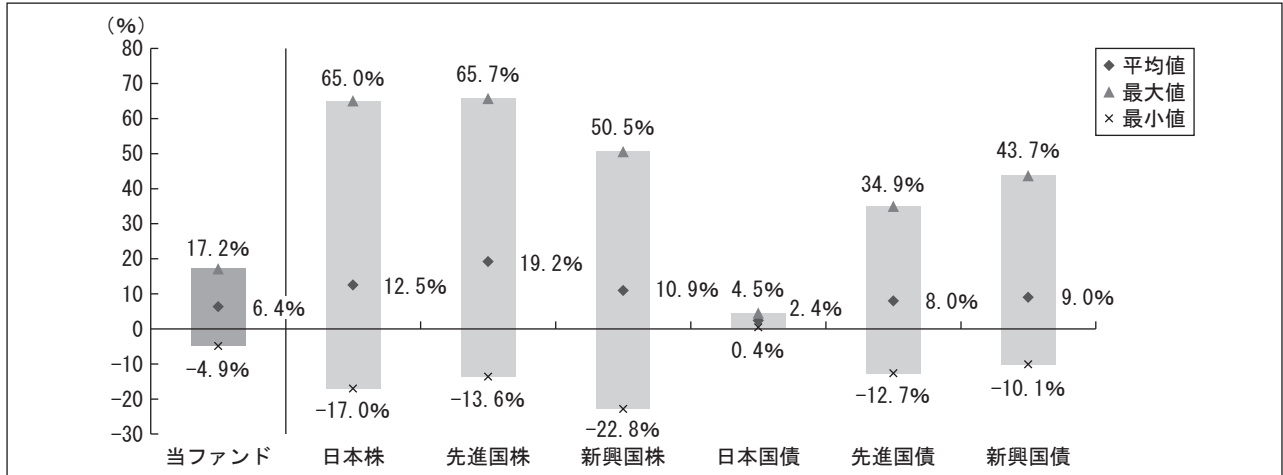
- ◆平成26年12月1日付の改正投資信託法施行に伴い、投資信託約款において以下の対応を行いました。（2014年12月1日付）
 - ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書の交付に代えて、運用報告書に記載すべき事項を電磁的方法により提供し得るための所要の変更を行いました。
 - ・書面決議手続きの緩和に関する所要の変更を行いました。
- ◆信託金限度額を3,000億円から4,000億円へ変更する約款変更を行いました。（2015年2月27日付）

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2013年4月26日～2018年4月17日（約5年）	
運用方針	主に円建ての外国投資信託Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class受益証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指します。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class受益証券 キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class	<ul style="list-style-type: none"> カナダの株式等 スワップ取引を通じた株価指数オプション取引、通貨オプション取引
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。 Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classにおいては、カナダ株式の配当利回り水準に着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄の中から、個々の企業のファンダメンタルズを勘案して銘柄を選定します。 Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 株式への投資に加え、株式カバードコール戦略と通貨カバードコール戦略の組み合わせであるツインα戦略を行うことで、オプションプレミアムの確保を目指します。 	
分配方針	<p>毎月17日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金再投資コースの場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	

【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2014年4月～2015年3月
 代表的な資産クラス：2010年4月～2015年3月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*騰落率は直近前月末から6ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	Citigroup Index LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

当該投資信託のデータ

《当該投資信託の組入資産の内容》

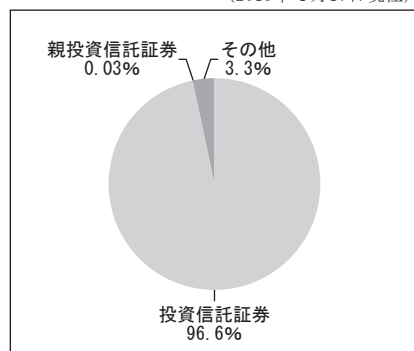
【組入ファンド】

	第22期末（2015年4月17日）
	組入比率
Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class	96.6%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.0%

*組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

【資産別配分】

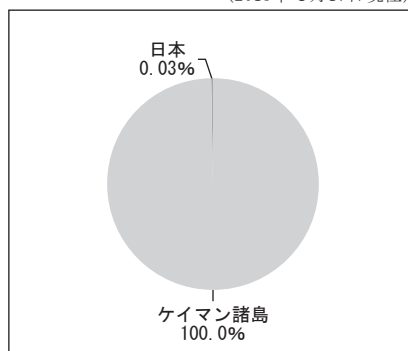
(2015年4月17日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

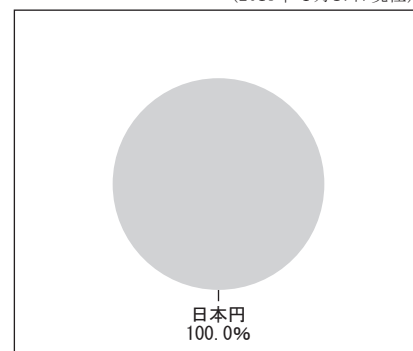
(2015年4月17日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2015年4月17日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【純資産等】

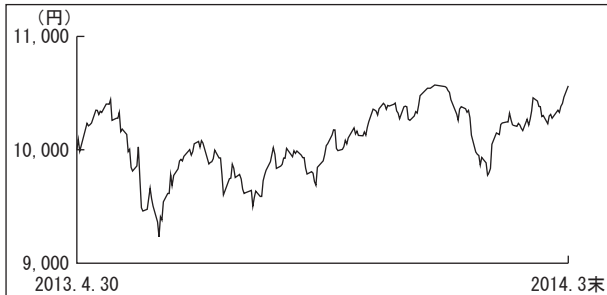
項目	第17期末	第18期末	第19期末	第20期末	第21期末	第22期末
	2014年11月17日	2014年12月17日	2015年1月19日	2015年2月17日	2015年3月17日	2015年4月17日
純資産総額	232,266,356,459円	210,787,705,111円	213,449,485,774円	221,997,926,458円	223,802,994,545円	248,095,146,270円
受益権総口数	280,232,551,407口	287,344,760,629口	294,267,247,884口	308,351,558,959口	331,123,478,674口	353,875,707,698口
1万口当り基準価額	8,288円	7,336円	7,254円	7,200円	6,759円	7,011円

*当作成期間中における追加設定元本額は107,924,750,015円、同解約元本額は23,521,005,542円です。

《組入ファンドの概要》

■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

【基準価額の推移】

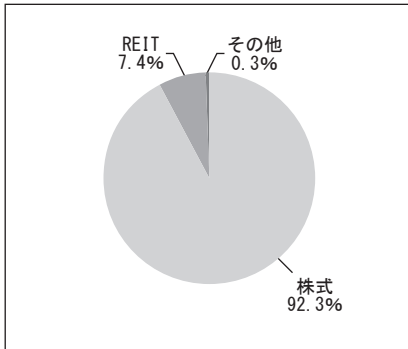


Principal/CS Canadian Equity Income Fund

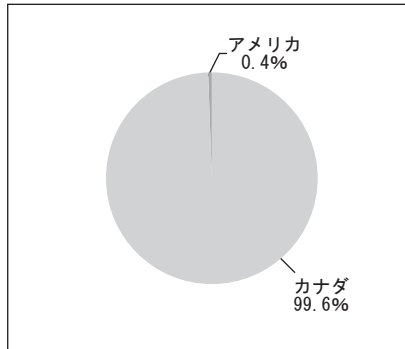
【1万口当りの費用明細】

費用については、開示されていないため、掲載していません。

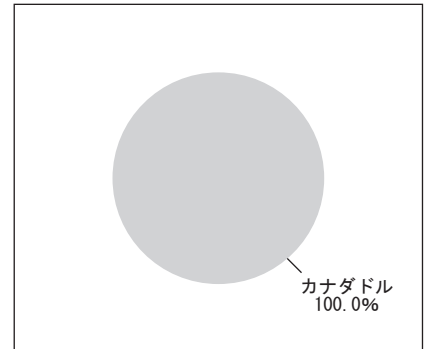
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



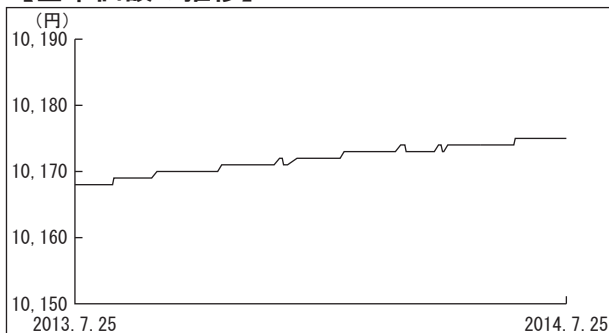
【組入上位銘柄】

銘柄名	業種名	比率
1 カナディアン・インベリアル・バンク・オブ・コマース	金融	5.5%
2 カナダロイヤル銀行	金融	5.5%
3 ボタシュ・コーポレーション・オブ・サスカチワン	素材	5.2%
4 ビーシーイー	電気通信サービス	4.2%
5 ベンピナ・パイプライン	エネルギー	4.1%
6 クレセント・ポイント・エナジー	エネルギー	4.0%
7 カナディアン・オイル・サンズ	エネルギー	3.4%
8 バンク・オブ・モントリオール	金融	2.8%
9 ブルックフィールド・アセット・マネジメント	金融	2.8%
10 インターパイプライン	エネルギー	2.6%

(組入銘柄数 90銘柄)

- ※ 資産別配分は2014年3月末現在のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの純資産総額に対する比率です。
- ※ 国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は2014年3月末現在のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの組入株式等の時価評価額合計に対する比率です。
- ※ 組入上位銘柄における業種名は世界産業分類基準 (GICS) です。
- ※ 当ファンドの運用報告書作成時点において、入手可能な直前計算期間のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの情報を記載しております。
- ※ 詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。
- ※ 上記はプリンシパル・グローバル・インベスターズLLCから提供されたデータに基づき作成しております。

■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 【基準価額の推移】



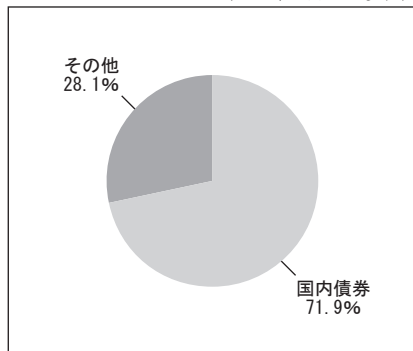
【1万口当りの費用明細】

(2013年7月26日～2014年7月25日)

当期中に発生した費用はありません。

【資産別配分】

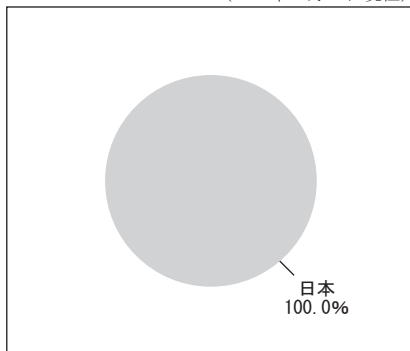
(2014年7月25日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

【国別配分】

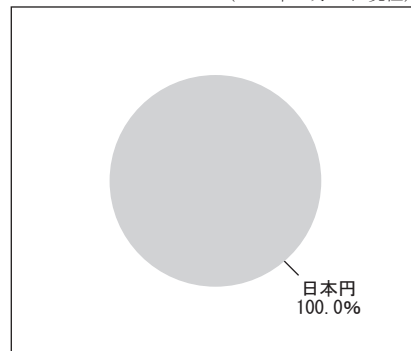
(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【通貨別配分】

(2014年7月25日現在)



*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

【組入上位銘柄】

(2014年7月25日現在)

銘柄名	比率
1 455 国庫短期証券	17.6%
2 404 国庫短期証券	17.6%
3 465 国庫短期証券	13.4%
4 323 2年国債	12.5%
5 319 2年国債	8.9%
6 13 リコーリース	1.8%

(組入銘柄数 6銘柄)

*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 全銘柄に関する詳細な情報および直近の計算期間の運用経過等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。